

## 2-3 心に響く近江の歌

滋賀県はその昔「近江の国」と呼ばれていました。近江の国には心に響く歌が数多く存在します。今回はそうした歌をいくつか紹介いたします。いつまでも大切にしておきたい曲ばかりです。

### 1. 「琵琶湖哀歌」

1941（昭和16）年4月金沢第四高生と京大生11名が合宿練習を行い、琵琶湖を横断している途中、突風で11名全員が大津沖で若き命を失われました。その後、遭難した学生を追悼するため、奥野椰子夫氏が作詞、菊池博氏が作曲しました。

<歌詞>

1. 遠くかすむは 彦根城 波に暮れゆく 竹生島  
三井の晩鐘 音絶えて なにすすり泣く 浜千鳥
2. 瀬田の唐橋 漕ぎぬけて 夕陽の湖に 出で行きし  
雄々しき姿よ 今いずこ ああ青春の 唄のこえ
3. 比良の白雪 溶けるとも 風まだ寒き 志賀の浦  
オールそろえて さらばぞと しぶきに消えし 若人よ
4. 君は湖の子 かねてより 覚悟は胸の 波まくら  
小松ヶ原の 紅椿 御霊を守れ 湖の上



写真2-3-1 琵琶湖哀歌記念碑（大津市堅田漁港周辺）

### 2. 細川 雄太郎作詞の童謡

細川雄太郎氏は滋賀県日野町に生まれ、幼い時に暮らした日野町を思い出しながら数々の童謡を詩作しました。その詩に海沼実氏が作曲し、広く歌われるようになりました。

#### (1) 「あの子はたあれ」

<歌詞>

1. あの子はたあれ たれでしょね  
なんなんつめの 花の下  
お人形さんと あそんでる  
かわいいみよちゃんじゃ ないでしょか
2. あの子はたあれ たれでしょね  
こんこん小やぶの 細道を  
竹馬ごっこで あそんでる  
となりのけんちゃんじゃ ないでしょか

#### (2) 「ちんから峠」

<歌詞>

1. ちんからほい ちんからほい ちんから峠の おうまはほい  
やさしいおめで ちんからほいほい ちんからほい  
おすずをならして とおります はるかぜ そよかぜ うれしいね
2. ちんからほい ちんからほい ちんから峠は おひよりほい  
ふもとの子どもが ちんからほいほい ちんからほい  
わまわしごっこで あそんでる 小鳥もぴいちく ないてます
3. ちんからほい ちんからほい ちんから峠の おうまはほい  
町からお帰り ちんからほいほい ちんからほい  
おせなにおみやげ 花のたば おくびをふりふり 帰ります

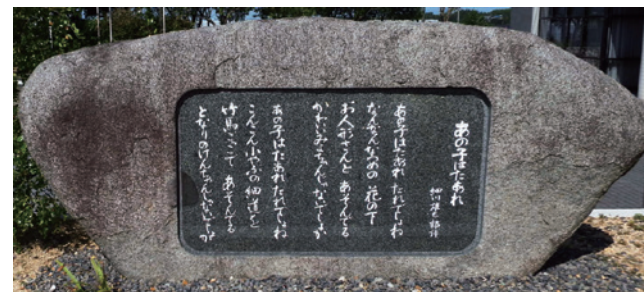


写真2-3-2 細川雄太郎記念碑（滋賀県日野町わたむぎホール内）

辰巳 晴生

JASRAC 出 1714937-701